

平成30年司法試験 合格体験記

平成29年度修了（未修コース）黒川 一磨

12期未修の黒川一磨です。

何を書くか悩みましたが、以下の2点だけ述べたいと思います。

1 受験生へのメッセージ

勉強方法等を語るには紙面が足りない上、私特有の事情が多すぎて参考にならない点が多いと思うので、一点だけ、私が司法試験の勉強をするにあたって意識していたことを述べたいと思います。

私は、「司法試験に合格するために意味があるか」ということを常に考えて勉強していました。

司法試験においては、選択科目を含めた8科目についての知識・思考を習得する必要があります。しかし、これを馬鹿正直に勉強すると、未修3年・既修2年では絶対に消化不良になります。したがって、勉強範囲を司法試験に必要な限度に絞る必要があります。

例えば、テキストや判例を読むと、数百字にわたる規範が書いてある場合があります。これをそのまま覚えていても、120分しか時間のない論文式試験では抽象論をそんな分量書く時間はありません。ゆえに、これを試験において答案上に表現できる分量にカスタマイズする必要があります。しかも、常に同じ分量の規範を書いていては、論点主義的な答案として採点者に嫌われてしまうので、当該問題との関係で、論点の重要性を判断し、書く分量を調整する練習もしなければなりません。

これらの能力の習得には、当然、司法試験の過去問を何度も分析する必要があります。ここから、論点の勉強は、司法試験を意識して初めて可能になることがわかると思います。そうすると、司法試験に合格するためには、常に司法試験を意識しなければならない、そうでない行為は、当面必要のない行為であり、自己満足のための行為に過ぎないと考え、上記のような意識をもって勉強していました。

皆さんも、司法試験を意識するということを常に忘れないで勉強してください。

2 最後に

私が、司法試験に合格できたのは、家族や、本法科大学院の先生方、資料室や教務の方々、数々の本法科大学院の支援者、実務家の先生方といった皆さんのおかげです。

改めてこの場でお礼を言わせてください。ありがとうございました！